

【にんにん】

以前、忍者ごっこをやっていて、紙で手裏剣（しゅりけん）をいっぱい作って、それがずぼんからはみだしているのを、懐爺に見つかったことがあります。

懐爺が云うには、

「忍者は手裏剣なんか使いません」

とのこと。

手裏剣の材料は鉄ですから、（鉄は貴重なので）投げたりしないらしい。

それからは手裏剣作りはやめて、風呂敷で覆面（ふくめん）を作っただけで、目だけを出したのですが、懐爺が云うには、

「忍者がそんなものしたら、息苦しくて、駆け廻ったりできないではありませんか」

とのこと。

そんならどうすりゃいいかと聞くと、

「忍者は手拭い一本で、人を殺しもできるし助けもできます」

とのこと。

それでしかたないから、ずぼんの尻のところに、手拭いをぶらさげて歩くのですが、田貫くんや木恒くんは野暮ったいと笑われました。

ううむ、忍者になるのは難しい。

忍者はふだんは野良仕事をしているらしいから、野暮ったくてもいいと居直ってみたけれども、手拭いぶらさげただけでは忍者っぽくない。

そういうことを懐爺に云ったら、それなら、

「印を結ぶ」

といいと云う。

「臨、兵、闘、者、皆、陣、烈、在、前」

の九字を表す印を結ぶ。

はい、そのとおりに掌を組んで、九字を唱えながら、

「えいっ、にんにん」

とやったわけですが、変身もしないし消えもしないので、また田貫くんや木恒くんは笑われました。

それでも、忍者は修練が大事と、

「にんにん」

を毎日毎日やっていたわけなのですが、そのうち、

「金ちゃん、消えたぞ」

と田貫くんが云います。

「金ちゃん、どこにいるんじゃ」

と木恒くん。

田貫くんと木恒くんに、化かされたとおもっていたものの、どうにも様子がおかしい。

嘘をついているようには見えないのです。

「ここじゃ、ここじゃ」

と声をあげても、

「どこじゃ、どこじゃ」

と云いつづける。

やった、と興奮したけれども、何となく不安になりました。

このまま消えてしまったら、死んだのと同じことになってしまう。

そのうち、

「にんにん」

の効果が薄れたとみえ、

「金ちゃん、見つけたぞ」

「金ちゃん、どこにいたんじゃ」

後からかんがえて、田貫くんも木恒くんも、ぼくが印を結ぶのに一生懸命なので、友情精神を発揮したのかと。

それでも、もしも、

「にんにん」

の効果だとしたなら、もっと嬉しいんだがなあ。